様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　５ 月 ３０ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ０２０３９

研究課題名（和文）女性医師の就労継続・キャリア形成推進のための実証的提言：フィンランドとの比較研究

研究課題名（英文）Empirical Proposals for Promoting Continued Employment and Career Development of Female Doctors: A Comparative Study with Finland

研究代表者
森屋　淳子（Moriya, Junko）

東京大学・医学部附属病院・届出研究員

研究者番号：００５５０４３５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：フィンランドでは、日本と異なり、医師の過半数が女性であり、女性医師の子育て期における就業率は低下しない。本研究では、フィンランドで働く女性医師の子育て期における就労継続の背景要因や、当事者のワーク・ライフ・バランスやジェンダーに対する認識・実感を明らかにすることを目的とした。フィンランドで働く女性医師等にインタビューし、その結果をSCATを用いて分析した結果，フィンランドで働く女性医師の「仕事と子育ての両立“非”困難感」の背景として、①医師が疲弊しにくい医療提供体制、②ひとり親でも無理なく働ける両立支援制度・体制、③休暇取得承認文化、④固定的性別役割分担意識の解消と実践、が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
「医師の働き方改革」や「女性医師の子育て期における就労継続」を真の意味で推進するには、「制度的働き方改革」だけでなく、「制度を利用しやすい文化・風土づくり」や「固定的性別役割分担意識の解消とそのための実践」といった「心理・文化的働き方改革」が必要であると考えられた。本研究で得られた知見は、日本の医師の持続可能な働き方や女性医師の就労継続支援に示唆を与えるものであるが、限られた女性医療職・医療体験者のインタビューに基づくものである。今後は本研究を発展させ、日本の医療現場での「休むことに罪悪感を持つ要因」「性別役割分担意識の変化阻害要因」などの心理・文化的背景を明らかにしていくことが課題である。

研究成果の概要（英文）：In Finland, unlike Japan, the majority of physicians are women, and the employment rate of female physicians does not decrease during the child-rearing period. The purpose of this study is to clarify the factors behind the career continuity of female doctors in Finland during their child-rearing years and to clarify their perceptions and feelings about work-life balance and gender. As a result of the analysis of interview data with female health professionals in Finland using SCAT, it was found that the background to the career continuity of female doctors working in Finland during the child-rearing period is due to (1) a healthcare delivery system that prevents doctors from becoming exhausted, (2) a work-life balance support system that allows even single parents to work without difficulty, (3) a culture of approval for taking leave, and (4) the elimination and practice of traditional gender role attitudes.

研究分野：社会医学　心身医学

キーワード：フィンランド　医師の働き方　ジェンダー意識　子育て支援　ワーク・ライフ・バランス　ダイバシティ　キャリア形成　質的研究

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様 式 C－19、F－19－1、Z－19（共通）

1. 研究開始当初の背景

（1） 日本の状況

日本では、自己犠牲的な長時間労働による医師自身の健康被害が問題となっており、「医師の働き方改革」が検討されている。また、年々増える医療ニーズとのミスマッチを解消するために、女性医師の活躍が特に期待されている。しかし、2018 年に一部の医学部の入学試験において女性合格者の数を意図的に抑制する「医学部医学科入学者選抜の不正」が明るみにでたように、日本の医療現場におけるジェンダー格差の問題や女性医師に対する意識的偏見、無意識の偏見の影響は根深い。日本における女性医師の割合は増加傾向にあるものの、2016 年時点で 21.2%に留まっており、OECD 諸国の平均（48%）を大きく下回り、OECD 諸国 37 か国中もっとも低い。また、日本の医学部における女性教授の割合はわずか 2.6%であった（小﨑, 2019）。さらに、子育て期に離職する女性医師が 24.0%と高い水準にある（M 字カーブ）。しかも、離職した女性医師のうち常勤として復職するのはわずか 33%であった。以上のように、日本の医師の職業生活におけるジェンダー格差は大きく、根強く残る固定的性別役割分担意識を背景に、多くの女性医師が就労継続の困難に直面している。世界経済フォーラムが毎年発表するジェンダーギャップ指数（GGI）でも、日本の順位は 144 カ国中 114 位（2017）と低く、ジェンダー平等後進国といえる。

（2） フィンランドの状況

GGI が世界 3 位（2017）のジェンダー平等先進国フィンランドでは、表1に示すとおり、様々な指標において男女平等が実践されていた。女性医師の割合は 58.3%であり、専門医数も女性の方が多く、管理職に就く医師の数は男女ほぼ均等である（Finnish Medical Association, 2016）。ワーク・ライフ・バランス（WLB）が重視され、仕事と子育ての両立支援も充実しており、子育て期の女性医師の就業率低下は認められない。そこでは「女性医師が増えると医療の質が低下する」ということはなく、Healthcare Access and Quality (HAQ) Index は 195 カ国中 4 位(Barber, 2017)であり、世界トップレベルの質の高い医療を提供しているといえる。

表1: フィンランドと日本のデータ比較（OECD2015）

項目	Finland	Japan
就業率（女性/男性）	73% / 78%	65% / 85%
平均収入（女性/男性）	32,506$ /40,000$	24,389$ /40,000$
女性管理職比率	34%	9%
女性議員比率	42%	9%
各省における女性大臣比率	63%	22%
女性医師比率	58%	21%

2. 研究の目的

日本の医師の持続可能な働き方や女性医師の活躍推進に関する示唆を得るために、以下の2つを本研究の目的とした。

（1） フィンランドで働く女性医師の子育て期における就業率が低下しない要因や当事者の WLB やジェンダーに対する認識・実感を明らかにすること

（2） 日本でアカデミックキャリアを構築した女性医師のライフストーリーを明らかにすること

3. 研究の方法

(1) フィンランドで働く女性医師の子育て期における就労継続の背景要因に関する質的研究

① フィンランドの医師の働き方や支援制度に関する文献レビュー、専門家へのヒアリング

東京大学のデータベース、フィンランド大使館への訪問、フィンランド留学経験がある医師へのヒアリング、男女共同参画や女性労働を専門とする専門家へのヒアリング等で情報収集を行った。情報収集で得られた知見は、研究チームのメーリングリストで共有し、メーリングリストや月 1〜2 回のオンライン会議で意見交換・議論を行った。

② 参加観察

2019 年 8 月〜2020 年 7 月に家族でフィンランドのヘルシンキに滞在し、実際に子供2人を現地のプレスクール、小学校、日本語補習学校に通わせながら、参加観察を行った。

③ フィンランドで働きながら子供を育てる/育てた女性医師等へのインタビュー

2019 年 9 月〜2020 年 3 月にかけて、purposive participant recruitment で参加を得たフィンランドで働く女性医師等 6 名を研究参加者として、半構造化面接を行い、得られた質的データを SCAT (Steps for Coding and Theorization) を用いて分析した。

④ フィンランドの就労継続・キャリア形成支援に関わる施設への視察訪問・インタビュー

研究分担者とともに現地調査をする予定であったが、COVID-19 パンデミックの影響やロシア・ウクライナ情勢を鑑み、中止した。代わりにオンラインを利用した情報収集や意見交換を行った。

(2) 日本の女性医師のアカデミックキャリア構築に関する質的研究

アカデミックキャリアを構築し主任教授に就任した女性医師 2 名 (育児経験あり 1 名、育児経験なし 1 名) および男女医師のキャリア構築に詳しい院長職の男性医師 1 名 (育児経験あり) を対象としたフォーカス・グループ・ディスカッションを行い、得られた質的データを SCAT を用いて分析した。

4. 研究成果

(1) フィンランドの医師の働き方や子育て支援に関する制度的・文化的側面について、データ収集・文献レビューを行い、知見を深めた。また、2019 年 8 月〜2020 年 7 月に家族でフィンランドに滞在し、実際に子供2人を現地のプレスクール、小学校、日本語補習学校に通わせる中で観取し経験した“ジェンダー意識や子育て支援の制度や文化”について、多様な媒体 (SNS、ブログ、Web 連載、新聞記事、商業誌、学会誌) を通じて報告を行った。

(2) 文献調査やインタビューで得られたデータをもとに、フィンランドで働く女性医師の子育て期における就労継続の背景要因や、当事者の WLB やジェンダーに対する認識・実感について質的分析を進めた。その結果、フィンランドで働く女性医師の「仕事と子育ての両立“非”困難感」の背景には、①医師が疲弊しにくい医療提供体制、②ひとり親でも無理なく働ける両立支援制度・体制、③休暇取得承認文化、④固定的性別役割分担意識の解消と実践、があることが明らかになった (図 1)。

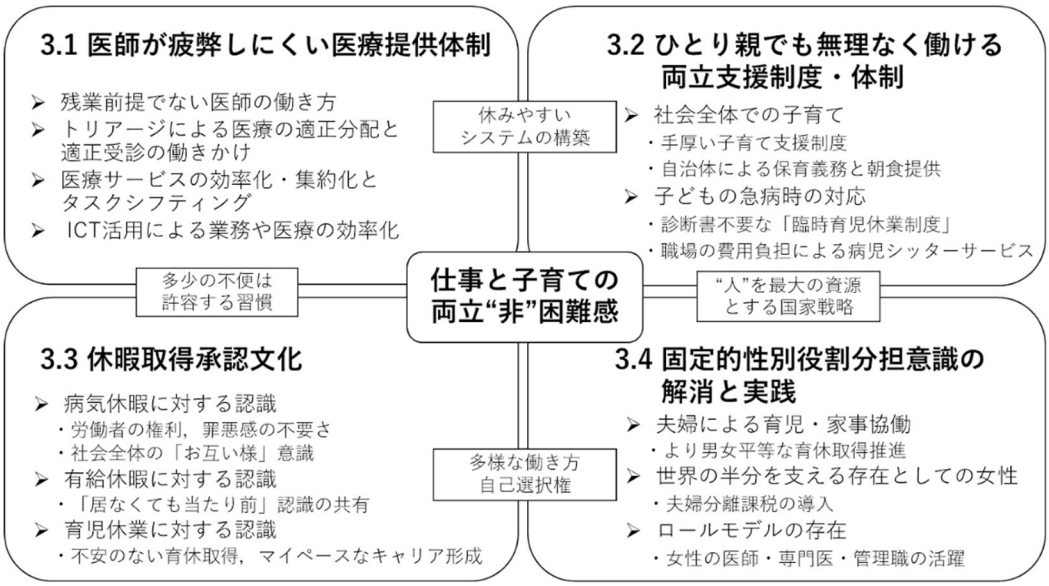

図 1：フィンランドの女性医師の子育て期における就労継続の背景要因

この結果を、第 12 回日本プライマリ・ケア連合学会、北ヨーロッパ学会 2021 年度研究大会、日本女性外科医会第 28 回勉強会で発表した。また、『北ヨーロッパ研究』 18：39～49, 2022 に「フィンランドで働く女性医師の子育て期における就労継続の背景要因に関する質的研究」として公表した。

(3) 日本の女性医師のアカデミックキャリア構築に関して、フォーカス・グループ・ディスカッションで得られた質的データを、SCAT を用いて分析した。その結果、育児を経験した女性医師、キャリア構築後に結婚した女性医師、育児を経験した男性医師は、それぞれ異なる方法でバーンアウトを予防し、アカデミックキャリアを構築した。この結果は、第 55 回日本医学教育学会大会で発表する。また、英文誌に投稿中である。

＜引用文献＞

小﨑真規子 (2019)「女性医師に対するアンコンシャス・バイアス」『日本プライマリ・ ケア連合学会誌』42(2), 117-123.

Barber RM, Fullman N, Sorensen RJD, et al. (2017) Healthcare Access and Quality Index based on mortality from causes amenable to personal health care in 195 countries and territories, 1990-2015: a novel analysis from the Global Burden of Disease Study 2015. *The Lancet*, 390 (10091), 231-266.

Finnish Medical Association (2016) Physicians in Finland. Statistics on physicians and the health care system.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計15件（うち査読付論文　7件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　10件）

１．著者名 森屋淳子	４．巻 5（3）
２．論文標題 ダイバシティ基本のキ：女性医師が過半数！フィンランドの医師の働き方	５．発行年 2020年
３．雑誌名 プライマリ・ケア	６．最初と最後の頁 83～85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 森屋淳子	４．巻 7(4)
２．論文標題 世界に誇る！フィンランドのネウボラ体験記	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Gノート	６．最初と最後の頁 646～649
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 森屋淳子	４．巻 7(5)
２．論文標題 ICT先進国！フィンランドの医療サービス体験談	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Gノート	６．最初と最後の頁 794～797
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 森屋淳子、後藤理英子、柳元伸太郎、冨澤康子、大谷尚	４．巻 18
２．論文標題 フィンランドで働く女性医師の子育て期における就労継続の背景要因に関する質的研究	５．発行年 2022年
３．雑誌名 北ヨーロッパ研究	６．最初と最後の頁 39～49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 森屋淳子	4．巻 8(1)
2．論文標題 コロナ禍における学会託児所の工夫と課題	5．発行年 2023年
3．雑誌名 プライマリ・ケア	6．最初と最後の頁 70～73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 冨澤康子，萩原牧子，野村幸世，小川朋子，柴崎郁子，島田光生，竹下惠美子，花崎和弘，葉梨智子，山下啓子，明石定子，山内英子，岩瀬弘敬，田口智章，中村清吾．	4．巻 120
2．論文標題 女性外科医のキャリアパス　育児中の日本外科学会会員の仕事とプライベートのストレス　働くドクターストレス調査結果から．	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日外会誌	6．最初と最後の頁 112～113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Tomizawa Yasuko	4．巻 248
2．論文標題 Role Modeling for Female Surgeons in Japan	5．発行年 2019年
3．雑誌名 The Tohoku Journal of Experimental Medicine	6．最初と最後の頁 151～158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1620/tjem.248.151	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Tomizawa Yasuko、Miyazaki Satoru、Matsumoto Takako、Uetsuka Yoshio	4．巻 252
2．論文標題 Selection of and Retention in Surgical Specialty during Early Career in Japan	5．発行年 2020年
3．雑誌名 The Tohoku Journal of Experimental Medicine	6．最初と最後の頁 95～102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1620/tjem.252.95	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 冨澤 康子、萩原 牧子、野村 幸世、明石 定子、柴崎 郁子、葉梨 智子、山内 英子、中村 清吾	4．巻 90
2．論文標題 育児中の日本外科学会会員の仕事とプライベートのストレス：働くドクターストレス調査結果から	5．発行年 2020年
3．雑誌名 東京女子医科大学雑誌	6．最初と最後の頁 30～37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24488/jtwmu.90.1_30	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kawase Kazumi、Nomura Kyoko、Nomura Sachiyo、Akashi-Tanaka Sadako、Ogawa Tomoko、Shibasaki Ikuko、Shimada Mitsuo、Taguchi Tomoaki、Takeshita Emiko、Tomizawa Yasuko、Hanazaki Kazuhiro、Hanashi Tomoko、Yamauchi Hideko、Yamashita Hiroko、Nakamura Seigo	4．巻 51
2．論文標題 How pregnancy and childbirth affect the working conditions and careers of women surgeons in Japan: findings of a nationwide survey conducted by the Japan Surgical Society	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Surgery Today	6．最初と最後の頁 309～321
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s00595-020-02129-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Okoshi Kae、Fukami Kayo、Tomizawa Yasuko	4．巻 2
2．論文標題 Analysis of Social Policy and the Effect of Career Advancement Support Programs for Female Doctors	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Women's Health Reports	6．最初と最後の頁 337～346
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1089/whr.2021.0038	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 冨澤康子	4．巻 122
2．論文標題 理想の男女共同参画を目指して　日本の外科医が減っている。次の一手は何?	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日外会誌	6．最初と最後の頁 135～136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 冨澤康子	4．巻 122
2．論文標題 理想の男女共同参画を目指して　女性外科医のキャリア形成と妊娠・出産.	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日外会誌	6．最初と最後の頁 292～293
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Fukami Kayo、Okoshi Kae、Tomizawa Yasuko	4．巻 2
2．論文標題 Gender bias in the medical school admission system in Japan	5．発行年 2022年
3．雑誌名 SN Social Sciences	6．最初と最後の頁 67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s43545-022-00378-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 大谷 尚	4．巻 8
2．論文標題 I. 研究報告. NACAC (National Association for College Admission Counseling) Conference 2022 参加報告	5．発行年 2023年
3．雑誌名 高大接続研究センター紀要	6．最初と最後の頁 2～33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18999/bulche.8.2	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 森屋淳子，後藤理英子，柳元伸太郎，冨澤康子，大谷尚
2．発表標題 フィンランドの女性医療職における「仕事と子育ての両立“非”困難感」の要因
3．学会等名 第12回　日本プライマリ・ケア連合学会
4．発表年 2021年

１．発表者名 森屋淳子，後藤理英子，柳元伸太郎，冨澤康子，大谷尚
２．発表標題 フィンランドで働く女性医師の子育て期における就労継続の背景要因：質的研究
３．学会等名 北ヨーロッパ学会2021年度研究大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 森屋淳子
２．発表標題 フィンランドの医師のワーク・ライフ・バランスとジェンダー意識
３．学会等名 日本女性外科医会　第28回勉強会
４．発表年 2022年

１．発表者名 後藤理英子，森屋淳子，柳元伸太郎，冨澤康子，大谷尚
２．発表標題 アカデミックキャリアを構築した女性医師のライフストーリー
３．学会等名 第55回日本医学教育学会大会
４．発表年 2023年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

・WAN(women's action network)連続エッセイ：フィンランドで見たジェンダー意識と子育て支援
https://wan.or.jp/general/category/finland

・E-book： FINLAND CAFE:静かな幸せフィンランド　Kindle版.尾崎真奈美編集．ふじやまなかこ舎．2020
第9章　子どもに優しいフィンランドの医療-森屋淳子

・読売新聞オンライン：教育のネット活用、自治体や学校間で格差…フィンランドや米国は子どもの生活状況把握も．2020/05/04
https://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/kyoiku/news/20200501-OYT1T50180/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	後藤　理英子 (Goto Rieko) (80748020)	熊本大学・病院・病院教員 (17401)	
研究分担者	柳元　伸太郎 (Yanagimoto Shintaro) (30463889)	東京大学・保健・健康推進本部・教授 (12601)	
研究分担者	冨澤　康子 (Tomizawa Yasuko) (00159047)	東京基督教大学・共立基督教研究所・協力研究員 (32516)	
研究分担者	大谷　尚 (Otani Takashi) (50128162)	名古屋経済大学・人間生活科学部教育保育学科・特任教授 (33923)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関